

# 群馬ヤクルト販売株式会社での学びの記録

～あたたかいつながりが広がる先に生まれる「居場所」～

## 会社案内

ヤクルトグループは、メーカーの「ヤクルト本社」と、全国各地でヤクルトブランド商品を販売する「販売会社」で構成されています。当社は、群馬県をエリアとする販売会社です。

令和5年度 長期社会体験研修員 志村 由香利

【研修先企業：群馬ヤクルト販売株式会社】

# 研修先企業について



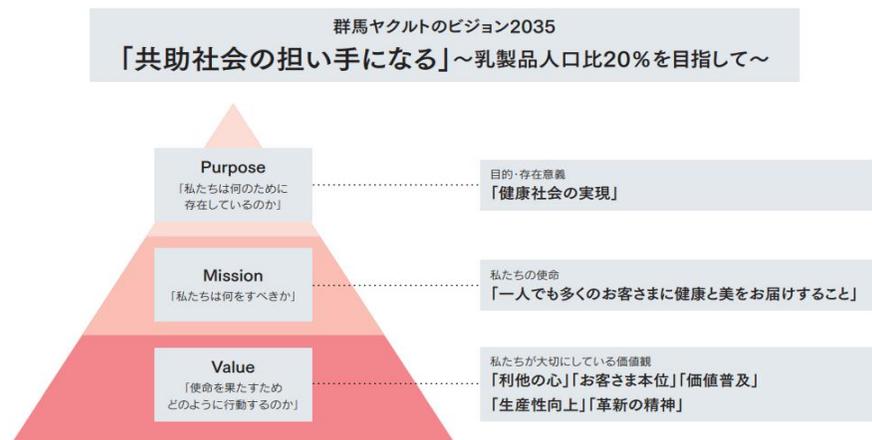
## 企業概要



### 群馬ヤクルトの信条

- 一、お客さまの健康と美しさに寄与することが私たちの使命である。  
一人でも多くの人にご利用していただき満足と幸せを提供しよう。
- 一、お客さまから支持されるサービスを提供しよう。そして地域社会に心をこめて貢献しよう。
- 一、仕事を通じ人生の夢と目標を達成しよう。互いに協力し全員が幸せになろう。

## 経営理念



### 全社戦略 ヘルスケアカンパニーへの進化とプラットフォーム型ビジネスモデル構築

#### 私たちが大切にしている価値観



## 年間研修計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入社員研修</li> <li>・宅配サービス部 (新人ヤクルトスタッフ研修受講) (同行：アドバイザーお届け)</li> <li>・ミニ健康教室 (準備・実践)</li> </ul>	
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直販サービス部 (価値普及イベント参加) (同行：量販店・給食・自動販売機への商品納入スーパーでの価値普及)</li> <li>・新入社員研修まとめ (レポート・会社への提言)</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直販サービス部 (実践：スーパーでの価値普及)</li> <li>・財務部 (障害者雇用枠採用者の業務見学)</li> </ul>	スクリーン
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来価値創造部 (同行：地域サロン等「健康教室」)</li> <li>・広報部 (同行：県内企業合同会議・地域づくりイベント)</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来価値創造部 (同行：企業向け健康経営普及)</li> <li>・人材開発部 (ブロンズ研修受講) (インターンシップ受け入れ手伝い)</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅配サービス部 市場開発チーム (サービスセンター引越し手伝い)</li> </ul>	連携プロジェクト
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>(ヤクルトスタッフ採用活動)</li> <li>(新お届けエリア地図準備)</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>(サービスセンターお披露目会準備)</li> <li>(新規お客様づくり)</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材開発部 (ブロンズ研修、大学進路担当と情報交換会)</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来価値創造部 (同行：「教員向け健康教室」案内)</li> <li>・人材開発部 (インターンシップ受け入れ手伝い)</li> </ul>	エクト
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>(合宿：中堅社員・若手社員)</li> <li>(同行：新入社員、中途採用社員業務)</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>(新卒採用会社説明会)</li> </ul>	
学校教育との関わり等	<p>各部署での同行や研修業務や社員研修への参加を通して、企業の組織エンゲージメント向上や人材育成の取組を捉えられるようにする。また、企業が社員に求める人材像への理解を深め、小学校でのキャリア教育の推進を図る。</p>	

# 主な研修内容(4月～6月)



## 4月 緊張の社員研修

新入社員研修を通して、群馬ヤクルトのどの部署の社員も、会社の経営理念に基づいて取り組んでいる一貫性に驚いた。また、「利他の心」の価値観を誰もが大切にしていることで、温かな人柄の社風が育っていると感じた。新入社員や新人ヤクルトスタッフと共に学び、研修に邁進していこうという想いと、現場で働き始める前段階の人材教育があることの有難さと重要性を強く感じた。



## 6月 得意を生かす

今月は様々な部署で研修業務を行った。財務部では、障害者雇用枠で務めている方の業務を見学した。視察では本人との対話から、上司の方に得意分野が生かせる役割を見いだしてもらえることへの喜びと自信を感じた。特別支援学級に在籍する児童生徒の就労支援についてのヒントを得ることができた。また、スーパーでの実践を行い、商品の魅力が伝わる言い回しの工夫を学んだ。



## 5月 続！社員研修

直販サービス部の研修が始まった。商品の納品同行を通して「売るのではなく、価値を伝える」価値普及の工夫を学んだ。取引先の方との関係づくりを大切にする対話力に加えて、売り場のポップや飾り、自動販売機の清掃やラインナップなどを通して、目を引く工夫や、価値を伝える工夫を常に考えている観察力や発想力に驚いた。児童との関わりや、教材研究の工夫のヒントとなった。



## 振り返り

人材育成の取組に衝撃を受けた3カ月だった。理念や使命の共有、群馬ヤクルトが求める社会人基礎力やマナー、商品知識を学んだ。また、先輩社員への同行や伴走の支援が確保されることで、新人は徐々に自走できるように育っていくと気付いた。教員を取り巻く様々な課題解決の対策として、採用決定後の担任業務が始まる前に、社会人基礎力や各市町村の教育指針を身に付ける、人材育成期間の必要性を感じた。

# 主な研修内容(7月～9月)



## 7月 学び続ける

群馬ヤクルト独自の資格制度「マイスター制度」を知った。役職とは別に専門性を磨き、周りによい影響を与え、認められる人材を見出す制度である。その認定条件として、専門性に加え、人間性が備わっていることが前提となることに納得した。社員の基礎能力として選定された科目を、社員の方々と一緒に受講した。教員としても即実践に結び付く知識や心構えを身に付けることができた。



## 8月 健康価値普及

先月までの地域高齢者サロンの「健康教室」や、企業に向けた「健康経営普及」の同行を通して、企業は社員の健康を守る取組を、積極的に行なっていることを知った。持続可能な組織であるためには、働く人が自分や仲間を大切に、生き生きと働いていることが大切であり、学校職員も健康が資本だと気付いた。実践協力校の職員に還元したいと考え、校内研修で講師を務め、健康意識の向上を図った。



## 9月 採用活動参加

宅配サービス部での現場研修が始まった。拠点は新たに移転した高崎北サービスセンターである。市場開発チームの皆さんと一緒に、ヤクルトスタッフ採用に従事した。一軒一軒の訪問で、少しでも興味をもって聞いてもらえるように、お互いに後味よく会話を終了するにはどう話したらよいか考えた。試行錯誤をする中で「感謝」「お礼」の言葉を相手に繰り返し伝える大切さに気付いた。



## 振り返り

健康経営や、ウェルビーイングの考え方に関心が向いた。そして、群馬ヤクルトの教員向け「健康教室」や、児童向け「おなか元気教室」を、自身が所属する前橋市の小学校に提案したいと考えるようになった。また、宅配サービス部のセンターマネージャー業務に、学校組織の活性化や人材育成のつながりを見出し、9月からの研修部署の希望提案を行った。研修員としての自覚や使命が高まる分岐点となった。



# 主な研修内容(10月～12月)



## 10月 採用活動

来年度新社員の内定式から始まった。印象的だったのは新社員の挨拶の内容である。社員育成制度に注目し、社会や会社への貢献に加え、自己成長を図る為に積極的に学びたいと堂々と述べていた。就職に対して具体的なビジョンをもった人材が採用されたのだなと思った。採用活動では2名をセンター見学にお連れした。相手の方の仕事に求める価値観を丁寧に聴き取る大切さを学んだ。



## 11月 新エリア準備

高崎北サービスセンターでは、お届けエリアの再編成の準備が始まった。市場開発チームは、採用活動と並行して、新たなお届けエリアの地図や名簿の作成を行い、ヤクルトスタッフさんたちは、お客様の引継ぎ準備が始まり、お客様のことをどれだけ知っているか、つながりの深さや関わり方を見直す機会となった。学校での児童の引継ぎと共通し、日頃の関わり方の質を自身も振り返った。



## 12月 新規お客開拓

11月中旬から、新規お客様づくりの活動に移行した。活動エリアを持ち、一人で訪問を行った。初回訪問で、相手に自分を受け入れてもらえるような関係まで築けるように、相手の方に興味をもち、話を十分に聴き一緒に会話を楽しむことを心掛けた。相手の話を十分に聴くと、商品の価値普及にも耳を傾けてもらった。関係が築けたからこそ相手の心が動くということを、実践を通して学んだ。



## 振り返り

採用・新規活動の4か月は出会いを求める毎日だった。社員の方から仕事に対する想いを伺える機会も多く、皆さん様に相手への感謝の想いが土台にあった。相手のよさを見付け、時間をかけて関係性を深めていく関わり方に人柄の温かさを感じた。一人一人が自分の責務を果たしているチームは、心理的安全性や生産性が高いことにも気付いた。この学びは学校現場に還元し役立てたい。



# 主な研修内容(1月～3月)



## 1月 健康経営提案

研究協力校校長の紹介を受け、前橋市の自主校長会にて、ヤクルトの健康経営の取組を紹介する場が設けられた。その後、市内の8割近くの小中学校に提案訪問を受け入れてもらえ、健康経営価値普及課の社員の方々に同行させていただき、管理職や養護教諭に向けて「教員向け健康教室」の詳細を伝えることができた。健康経営の学びを還元する第一歩となった。



## 2月 社員の成長支援

中堅社員合宿に参加した。現状の自分を知り、受け止め、成長に生かすことを目的とした研修だった。役員全員で未来を担う社員の成長を親身に考え、支え導こうとしている想いを、意見交換から感じた。以降従事した新入社員の同行で、人材育成を受けた1年目の成長や働き方を見届け、人として、社会人としての基盤形成の重要性と、時間をかけるべき価値を実感することができた。



## 3月 成長を見届ける

若手社員合宿に参加をした。キャリアの講義や役員講話とグループ討論を通して、自身のキャリアの方向性を描き、同期同士の交流を深める研修だった。役員若手時代の失敗談や、奮闘の中で見いだした仕事への向き合い方は、若手社員の心に響いていた。新入社員の同行も続き、新人・若手の段階的な成長を見届けることができた。若手教員のキャリア育成の導き方にも役立つと思った。



## 振り返り

群馬ヤクルトの皆さんに心より感謝申し上げます。企業研修で学んだことを生かして、今後も学校現場で実践していきたいことは以下の3点です。

- ・キャリア教育実践を継続すること
- ・健康経営の大切さを伝えること
- ・人材育成の大切さを伝えること

信頼関係を基盤とした、組織エンゲージメントの高い職場、生産性の高いチームづくりを牽引していくことが、恩返しになると信じています。



# センター研修と授業実践



## センター研修

### 10月 キャリア教育研修

校種問わず「地域の特色に合わせ目の前の子供たちのニーズや将来自立するために必要な力をしっかり考え、具体的な能力を設定すること」が大切と学んだ。キャリア教育を通して、学校での学びが人生と関わり、社会に出て生かされていくというつながりに気付いた。見通しをもち、振り返ることができるような実践を目指したい。



### 10月 研修先以外の企業訪問研修

白井屋ホテルで大切にしている三つの価値観の一つ「創育工夫」に込められた「好きを探す」という考えに納得した。スタッフの話にも「好きになる力」とあったが「好き」はシンプルで感覚的だが、人とつながりを広げる際には、一番分かりやすく核心になる力だと気付いた。この視点と価値観を子供たちと関わりに生かし、伝えていきたいと思った。



### 11月 実践協力校の授業実践検討会

子供たちは社会との接点をヤクルトのフィルターを通して、自分事として実生活に結びつけて考えていた。丁寧に子供たちの言葉を拾い展開できる構成がよかった。「キャリア教育は単発になりがちだが『生き方宣言』のその先があるというのがよい」と指導講評をいただいた。研修先企業で得た学びと気づきを子供たちに還元することができた。

卒業を迎える自分に向けて (11月)  
人と人のつながりを大切にする 生き方宣言

卒業に向けて

残りの日々をどう過ごすか?

『人と人のつながりを大切にする』

生き方宣言



## 研究協力校での授業実践

対象：小学校6年生（27名）

特別活動「卒業を迎える私へ」

ねらい

人から信頼される行動について、考えたり協議したりすることを通して、小学校卒業・中学校進学を迎える自分の生き方について見つめ直すことができるようにする。

授業の流れ・様子

キャリア教育実践：学級活動 45分×2コマ

- 導入 ●群馬ヤクルトについて知る  
●信頼関係や人と人のつながりを大切にしたい生き方について知る
- 展開① ●小学校生活を振り返り、信頼される人の行動について考える  
●個人で考え、班で意見を共有する
- 展開② ●班ごとに発表、学級全体で意見を共有する
- まとめ ●卒業までの過ごし方を「生き方宣言」として発表する



メッセージ動画視聴の様子



班の発表の様子



「生き方宣言」発表の様子

振り返り

- ・児童それぞれが真剣に自己と向き合い、卒業に向けて信頼関係に視点を当てた目標を考えることができた。
- ・学校と企業の連携で行うキャリア教育授業提案として、次年度以降も継続していきたい。

桃川小学校  
創立150周年  
記念マスコット  
「ももかわうそ」